

Profile

島田久美

横浜生まれ。東広島市在住。エリザベト音楽大学器楽科ピアノコース在学中、特待生に選ばれる。大学卒業後、母校広島女学院より奨学金を受けて渡英。ロンドン・トリニティ音楽大学ポストグラデュエイトコース修了、ギルドホール音楽院にてP.ハンバーガー氏にドイツリート伴奏法を師事。ロンドンにてリサイタル。帰国後、ゲバントホール「楽しいコンサート」シリーズ15回の出演、エリザベト音大卒業生3名による自主活動グループ「サヴァンセ」、ソロ、室内楽、合唱の伴奏などの演奏活動を行う。東広島市、広島市を中心にピアノの後進指導にあっている。ピアノを小嶋素子、米田栄子、井上二葉、ティモシー・レイベンスクロフト、ソルフェージュを森保尚美、新保公子の各氏に師事



大野志門

広島県出身。6歳よりピアノを始める。これまでに、鈴木かおり、小嶋素子、横山幸雄の各氏に師事。現在、青柳晋氏に師事。全日本学生音楽コンクール第3位、野島稔・よこすかコンクール入選など。東京藝術大学の同級生で結成された音楽制作チーム「カプトムシ」メンバーとして、楽曲制作、ライブ活動を行っている。東京藝術大学音楽研究科ピアノ専攻1年在籍。



和田征士

尾道市出身。7才からピアノを始める。現在、東京藝術大学器楽科ピアノ専攻2年生。津田裕也氏に師事。これまでに、ピアノを小嶋素子・田中香月・桑田日登美、ソルフェージュを島田久美各氏に師事。また、萩原麻未・横山幸雄・多賀谷祐輔・ジャック・ルヴィエ・イェルク・デムス各氏の指導も受ける。2020広島サマーコンサートに於いてカワイ賞受賞により、2021、カワイ広島にてサロンコンサートを行う。第24回長江杯国際音楽コンクールピアノ部門大学生の部第1位。合わせて審査委員長賞。中国ユース音楽コンクールに於いて小・中・高3部門最優秀賞受賞により、中国新聞社から推薦を受け、全国新聞社主催音楽コンクール上位入賞者演奏会に出演。期待される青少年コンクール審査員特別賞受賞により、第50回記念福山音楽祭、第52回福山音楽祭プレミアムコンサートに出演。第13回ペーテン音楽コンクール第3位。第73回全日本学生音楽コンクール大阪大会・第43回ピティナピアノコンペティションG級本選入選。第28,29回日本クラシック音楽コンクール第5位 他



新刊 風車

ピアノ 島田久美
東京藝大2 和田征士
東京藝大院1 大野志門

ドビュッシー
『ベルガマスク組曲』

シューベルト
『楽興の時 D780 Op94』

ショパン
『アンダンテスピナートと、華麗なる大ポロネーズOp.22 変ホ長調』

ヒナステラ
『3つのアルゼンチン舞曲集 Op.2』

サティ
『冷たい小品』

ヤナーチェク
『霧の中で』

東広島芸術文化ホール
くらら小ホール

公演日時
2022
2/5
sat
開場
14:30
開演
15:00
料金
¥2000

*未成年者のご入場は
ご遠慮いただいております。

チケット取扱い
東広島芸術文化ホール くらら チケットセンター
窓口のみ取扱い(営業時間6:00~16:00/土日祝も営業)

問い合わせ:ミュージックハウスK TEL/FAX 082-439-1117 (留守録にお名前、ご連絡先を残していただければ翌日以降折り返しお電話いたします。)
【お客様へのお願い】 受付でのお品のお預かりは致していません。 感染予防対策のためご理解お願い申し上げます。

C・ドビュッシー (1862~1918)

『ベルガマスク組曲』 Claude Achille Debussy 『Suite bergamasque』

くしくも今年がドビュッシー生誕160年、本日演奏します『ベルガマスク組曲』は1890年に作曲され、初期のピアノ曲の代表作。初期の作品は圧倒的に歌曲が多く、ベルガマスク組曲もヴェルレーヌのとても美しい詩からインスピレーションを得て作曲された。ドビュッシーはフランスを代表する作曲家で、ユーロ導入まえばお札にも登場。フランス音楽の特徴は教会旋法や全音音階などを使って、ありきたりではない色合いの響きで、新鮮な気持ちを呼び起こさせる音楽。この組曲は『前奏曲』『メヌエット』『月の光』『パスピエ』の4曲から構成されている。「前奏曲」ハッピーで軽やかな曲調の中、主題がやさしく明るく織りなされる。「メヌエット」古典様式で古楽器のような響きを持つ、陽気で自由な曲。「月の光」哀しくも美しい光の風景。「パスピエ」古いフランスの舞曲で、いにしえに思いをはせた曲。かげりのある魅力的な主題がロンドのように幾度か登場し優雅に素朴に、すこし不思議な感じで最後は軽やかに消えていく。

ショパン (1810~1849)

『アンダンテスピナートと、華麗なる大ポロネーズ Op.22 変ホ長調』

Fryderyk Franciszek Chopin 『Andante Spianato and Grande Polonaise Op.22』

管弦楽付のポロネーズとして作られた曲に、静かなノクターンの様なメロディアスな前半を付け加え、1つの曲として1836年に出版されました。祖国を離れた若き日のショパンの望郷の想いを秘め、どこか悲しみをたたえつつも尚、雄壮さも持ち合わせています。静かな湖面を滑るような優雅な前半。後半は、ホルンのファンファーレから、活力のある華麗な力強いポロネーズが始まります。

ヒナステラ (1916~1983)

『3つのアルゼンチン舞曲集 Op.2』 Alberto Ginastera 『Danzas argentinas』

アルゼンチンはブエノスアイレス出身のヒナステラが21歳の時の作品です。中南米の熱い民族色を前面に押し出した楽曲で、情熱的なアルゼンチンギターの色を彷彿させます。まずは年老いた牛飼いの踊り、そして上品で粋な美しい女性の踊り、最後には草原地帯で牧畜を営む、南米のカウボーイ(gaucho)の情熱的な踊りと、3つの舞曲で構成されています。

～休憩～

サティ

『冷たい小品』 Satie, Erik: Pieces froides

シューベルト

『楽興の時』 Schubert, Franz: Moments musicaux D 780 Op.94

楽興の時は、シューベルトが1823年に作曲した小品集で、6曲からなる。19世紀ロマン派の時代には、さまざまなキャラクターピース(性格的小品)が作曲されたが、この作品もその一つである。標題音楽が盛んであった時代に、単純に『音楽の時間』と題されたこの音楽は、シューベルトの歌曲旋律のエッセンスが発揮された、愛らしい作品である。

ヤナーチェク

『霧の中で』 Janáček, Leoš: V mlhách

娘オルガに先立たれ、数々のオペラがブラハの歌劇場から拒絶されていた1912年の作品であり、従ってヤナーチェクが人生の難局に立たされていた時期の作品である。「霧の中」とは、このように文字通りの五里霧中を象徴するものと解釈する向きもあれば、4曲がすべて黒鍵を多用した調号を用いていることや頻繁な拍子の変更といった特徴こそが「霧の中」だと解釈する向きもある。この曲集は、ドビュッシーに影響された印象主義的な雰囲気が見られるとしばしば言われてきた。初演は1913年12月7日に、モラヴィアの都市クロミェルジージュにおいて、モラヴィア合唱協会主宰の演奏会でマリエ・ドヴォルジャコヴァーの演奏によって行なわれた。